



シンガポール修学旅行



令和6年10月8日から12日にかけてシンガポールに修学旅行に行きました。シンガポールに到着してすぐにマーライオン公園に行きました。2日目は、仏教、道教、イスラム教、ヒンドゥー教、キリスト教の寺院を訪れ、教会で「祈りの集い」を行って世界の平和のために祈りました。3日目は現地の大学生との班別自主研修を行い、夕方は船に乗って迫力の噴水ショーを鑑賞しました。最終日はセントーサ島にあるユニバーサルスタジオシンガポールで思い切り楽しんだ後、夜は夜の動物園をトラムで見学しました。

この旅行で多民族国家としてのシンガポールで、様々な宗教、文化、言語に触れ、「発見・驚き・感動」の経験を重ねました。

【生徒の感想】

- ・自分の気持ちが相手に伝わったときは嬉しかった。自分にはもっと英語力が必要だ。
- ・ずっと行ってみたいだったモスクに実際に足を踏み入れることができ本当に感動しました。
- ・夜景と一緒に見た噴水ショーはとても規模が大きく、まるで別世界にいるようでした。
- ・檻も柵もない状態なのに、あんなに近くで動物を見ることができて感動しました。

朝夕めっきり冷え込む時候となりました。つい先日まで「いつまでこの暑さが続くのか」と言っていたような気がしますが、時は着実に経過しているようです。皆様はお元気にお過ごしでしょうか。

さて、生徒の皆さんは学校でいろいろな学習をしています。それぞれの授業では多角的に物事を捉えるために必要な知識を獲得し、宗教の時間や講堂朝礼の時間には、海星の生徒としての心得、また、キリストの教えに依拠した思考方法、部活動や学校行事においては対人関係づくりの基礎となるものを学んでいます。

しかし、社会に出て必要な学問・知識のすべてを高校で学べるわけではありません。国際化、情報化、高齢化と、複雑に目まぐるしく変化していく社会の中で、主体的に情報を取捨選択し、物事を的確に把握し処理できる能力・判断力は、むしろ高校を出てから学んでいくものであると言えます。そこで、あと数ヶ月もすると本校を卒業していく3年生の皆さんに特に伝えておきたいことがあります。それは「学ぶ心を忘れないで欲しい」ということです。独学で学び、松下電器、現在のパナソニックという会社を作られた松下幸之助氏は、「学校を出てからが本当の勉強であり、学校時代の成績の良し悪しも大切だが、どれくらい真剣に仕事に取り組むかでその人の将来が決まる。」と述べておられます。どうか生涯にわたって学ぶ心を忘れず、絶えず知性を磨き、良識を高め、心身共に健やかな人となるように心がけてください。

社会に出てからは、学び続けることと同じようにコミュニケーション能力や協調性なども求められます。コミュニケーションの基本として「挨拶」がとても重要な意味を持ちます。

挨拶は日頃行っていると自然と習慣になり、自ずと挨拶をするようになるものです。挨拶をすることで、そこから会話が始まり、新しい友だちができたり、自分の知らなかったことを知ったりする機会が生まれるかもしれません。では挨拶をしない、もしくはされても返事をしない人はどうでしょうか。そのような人はいつまでも受動的な態度で、自ら挨拶をするようにはなりませんし、そのような人と会話をしたいと思う人は少ないでしょうから、結果として周りから人が減っていくことになってしまいます。「挨拶」はいつの時代であっても、対日本人のみならず、世界中の人々と関係を構築する上で最も基本となるものだという事は言うまでもありません。

ではどのようにすれば挨拶を自分から行うなどの「品格」と呼ばれるものを身につけることができるのでしょうか。マナーや言葉遣いなどは1日で変えることはできません。普段からできていないことが、いざ重要な場面で行えるかと問われると、疑問符がつくことでしょう。そのため、常日頃から挨拶し、丁寧な言葉づかいに気をつけ、人と積極的にコミュニケーションを取り、「品格」の基礎となる部分を形成していきましょう。

誠実な姿勢で臨む豊かな社会体験、異文化交流と認識、それらを通して身につけた総合力が「品格」と呼ばれるのかもしれませんが、品格のある人たちは、確かな判断力を持ち、どのような状況にあっても動じない心や、相手を気遣う余裕の心、周囲を明るくする機転を有しています。このようなことが実践できることによって、視座が自然と高くなっていくのだと思います。生徒の皆さんには「品格」を兼ね備えた、国際的に活躍できる人になってくれるよう期待しています。



北海道修学旅行

今年度の北海道修学旅行は、函館・札幌・小樽の三つの都市を訪れました。初日に訪れた函館は、江戸時代に下田とともに最初に開港された地です。今年の初めに平和の旅で訪れた長崎に似た雰囲気を感じながら生徒は元町教会を見学しました。五稜郭タワーでは、土方歳三をはじめ函館ゆかりの人物や幕末の歴史を学びました。

2日目はトラピスチヌ修道院を訪問し、シスター方の修道院での祈りの生活について学びました。旅人の聖堂を特別にお借りし、祈りの集いを行いました。その後、札幌に移動し、自主研修を行いました。

3日目は、マリアの宣教者フランシスコ修道会札幌修道院を訪問しました。シスター方から歓迎していただきました。生徒たちは、シスター方の世界での活躍話や海星の姉妹校の話の伺い、海星のルーツである修道会の偉大さを改めて知る良い機会となりました。その後は、札幌オリンピックミュージアム、白い恋人パークで大いに楽しみました。

最終日は、小樽での自主研修です。明治時代は、小樽が北海道の金融の中心であったため、元銀行の建物が多くありました。日本銀行小樽支店は、現在資料館となっており、貨幣史を学ぶとともに、金融制度について学びました。そこで働いている方が神戸海星出身という偶然の出会いがあり、ここでも海星のつながりを感じることができました。

今回は6人という少人数の修学旅行ではありましたが、少人数だからこそできる海星ならではの充実したものとなりました。特に修道院への訪問、シスター方との交流は、心温まる大切なひとときでした。また、海星の姉妹校間のつながり、母体となる修道院とのつながりという自らの学校のルーツを学ぶ機会となりました。今回の修学旅行はこれまでと違い、家族旅行のような雰囲気がある思い出深い修学旅行となりました。



アジア派遣請受け入れ

10月30日～11月1日の間、アジア派遣事業の一環としてベトナムから2名の留学生、リンさんとクララさんを受け入れました。ホストファミリーは、8月に海星からベトナムに派遣された20中村さんと能登さんです。リンさんとクララさんは、日本のアニメ、特にコナンが大好きで、日本のサブカルチャーに興味があるようでした。

今回は、日本の伝統的文化である茶道と華道を学んでもらいました。ホストファミリーからプレゼントされた浴衣を茶道部の指導のもと初めて着てみました。そして、茶道部が点てたお茶と一緒に和菓子を楽しみました。リンさんは「美味しい」と喜んでくれましたが、クララさんにとっては、少し苦かったようです。その後、武末先生に華道を教えていただきました。リンさん、クララさんともにそれぞれ個性豊かな作品を創っていました。その他、体育・ピアノ・そろばん・カルタ・剣道・調理実習・ドラマなど様々な授業を体験してもらいましたが、一緒に過ごすことができ、本校の生徒にとっても良い経験となりました。



卓球部より



九州大会応援よろしくお祈いします

Schedule of events

12/2	土	創立記念宗教講演会
12/4	水	1Aドラマ発表会
12/11	水	ワンヘルス 講演会
12/14	金	街頭募金
12/17	火	クリスマス記念ミサ
12/19	木	歌練習
12/20	金	終業日 クリスマス記念ミサ

Follow me!

福岡海星女子学院高校

